

証券アナリスト（CMA）プログラムの改定について

公益社団法人 日本証券アナリスト協会
専務理事 前原 康宏

今般、当協会では、証券アナリスト（CMA）プログラム（以下、CMAプログラム）を15年ぶりに改定し、2021年5月17日に協会のウェブサイトで对外公表いたしました。今回の改定に至った背景等につきまして、ご説明します。

CMAプログラムは、1977年度に始まり、本プログラムによって日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）の資格を取得した検定会員は現在約2万8千名を数えています。本プログラムは、1992年度に1回目の改定、2006年度に2回目の改定を実施し、今回が3回目の改定となります。

証券アナリストは、証券投資の分野において、高度の専門知識と分析技術を応用して、各種情報の分析と投資価値の評価を行い、投資助言や投資管理サービスを提供するプロフェッショナルです。

昨今は、投資理論やデータ分析技術の発達、日本経済の成熟に伴う資産運用ビジネスの拡大、金融業務の規制緩和や経営理論の普及等から、証券アナリストの活動領域も大きく拡がり、金融や投資に関して必要な深く幅広い知識・スキルを持つプロフェッショナルとして、金融業界のみならず、様々なビジネス分野で、そのニーズが高まっています。同時に、金融商品および金融・資本市場の進化に伴って必要となる知識・スキルの高度化・複雑化に対応した顧客本位の取り組みの強化や、ビジネス全般におけるコンプライアンスの重視も大きな潮流となっています。

こうした変化を踏まえ、日本証券アナリスト協会では、昨年11月に以下のような理念と使命を制定しました。今回の改定は、これらの理念と使命に沿ったものです。

理念：金融・資本市場の健全な発展を促進し、持続可能な社会の実現に貢献する。

使命：広い視野、深い専門知識・分析能力、高い倫理観を備え、時代の要請に応える金融・投資のプロフェッショナルを育成する。

今回の改定では、金融・投資のプロフェッショナルを取り巻く環境や役割の変化を踏まえて、カリキュラムの体系を全面的に見直し、より学びやすいプログラムに刷新しました。例えば、これまで第2次レベル講座で「コーポレート・ファイナンスと企業分析」を1つの学習分野としていましたが、企業価値の向上を重視する流れの中で「コーポレート・ファイナンス」を独立した学習分野とし、第1次レベル講座にも組み込むこととしました。また、顧客本位の取り組みやコンプライアンスが強求されていることから、「職業倫理・行為基準」も第1次レベル講座から学習することとしました。

今回の新しいCMAプログラムを通じて、深く幅広い知識・スキルと高い倫理観を備えた金融・投資のプロフェッショナルが一人でも多く生まれ、企業価値の向上や持続的な社会の実現に貢献していくことを心から期待しています。